

第六章

結論

第六章 結論

6-1 本研究の結論

6-1-1 目的ごとの考察

本研究では、登録再生利用事業者制度に登録されている再生利用事業者の事業実施状況の把握と、その結果から成功事例を抽出し、その特徴について考察した。

これらにより、わかったことを以下に示す。

6-1-1-1 登録再生利用事業者制度における事業実施状況について（目的1）

- 再生利用事業者による再生利用事業内容で最も多いのは「肥料化」、次に「飼料化」「油脂化」「油脂製品化」「メタン化」の順である。
- 多くの事業者が食品リサイクル法施行後に事業を開始している。
- 再生利用事業者は再生利用事業を単独で実施するのではなく、収集・運搬業等、他の事業の傍らで再生利用事業に取り組んでいる。
- 食品廃棄物資源化施設投入率はほとんどの事業者が100%である。
- 再生利用事業者は広範囲から原料となる食品廃棄物を収集し、製造した再生利用製品は局地的に利用・販売している。
- 黒字事業者数は、赤字事業者数の倍以上である。
- 支出は「人件費」「収集運搬費用」「食品廃棄物資源化施設維持費」が多く、「廃棄物受入料金」「再生利用製品の売上」の収入で賄っている。
- 再生利用事業において最も苦勞した点は、「廃棄物回収量の安定性」である。
- 今後の再生利用方法として約半数の事業者が「飼料化」を検討している。
- 市町村の廃棄物処理料金は再生利用事業者よりも平均で23円安く、再生利用事業者へ委託されにくい状況にある。

6-1-1-2 成功事例の特徴について（目的2）

- 年間処理実績からみる事業者の規模は、全体傾向よりも成功事例には規模が大きい事業者が多い。事業実施年数も成功事例の方が比較的实施年数が長いといえる。
- 収入の内訳では「食品排出事業者からの受入料金」と「再生利用製品の売上」が占める割合が高く、この点から、事業のコストに見合った受入料金が徴収できていること、再生利用製品の利用・販売先が安定的に確保されていることがわかる。
- 販売経路については、地元農家へ販売されている製品が最も多い。飼料化はほとんどの事業者が養豚業者と飼料メーカーへ向けて出荷している。
- 成功事例事業者が上げた今後の課題にみられたのは、消費者、食品排出事業者、行政担当者の認知度が低いことと、それが原因となり再生利用製品の価格が理解されない、また原料が減少していることによる購入額高騰が資金繰りを圧迫していることであるなど、料金や費用についてであった。

- 成功事例の受入料金，買取料金，近隣市町村の受入料金と全体傾向とを比較すると，平均受入料金は成功事例の方が低いが，平均買取料金が全体傾向よりもかなり低くなっている．また全体傾向では事業者の平均受入料金が市町村の平均受入料金を上回っているのに対して，成功事例においては事業者の平均受入料金の方が24円も低くなっている．このことから成功事例事業者は食品排出事業者から廃棄物処理の委託先として選択されやすい状況にあるといえる．

6-1-2 本研究全体の考察

全体を通して目立ったのは，リサイクル志向が高まっている一方で消費者，食品排出事業者の認知，理解不足，また公共処理施設の料金設定などの行政の意識の低さに対して今後の課題として上げている事業者が多かったことである．再生利用事業者，消費者・食品排出事業者，再生利用製品利用・販売先の三者が一体となった再生利用事業を推進していくことが必要である．

6-2 本研究における今後の課題

本研究における今後の課題を以下に示す．

- (1)食品排出事業者側からの食品リサイクル実施実態把握
- (2)都道府県別の実態把握

また，本研究では統計的な分析まで至ることができなかつたため，さらに詳しく分析をすることで信憑性を高める必要がある．